

今週（8月17日から8月21日）の短期金融市場動向

●無担保コール市場

今週の無担保コールO/N物は、引き続き資金調達ニーズが旺盛な中、出合いの水準は0.97%台で推移した。また、地銀業態の試し取りにより、一部付利を上回る水準での出合いも見られた。
加重平均レートは、0.977%で安定して推移しており、21日(金)も概ね同水準での取引が中心となった。

ターム物については、利上げ観測の高まりや四半期末を跨ぐ期間での調達ニーズの増加を背景に、調達レートが上昇し、1.10%~1.30%程度での引き合いが見られた。

日銀当座預金残高は、14日(金)の年金定時払いを受け、426兆円程度でスタート。19日(水)に5年債発行により、422兆円程度に減少。21日(金)は、424兆円台での着地が見込まれる。

●債券レボ市場

今週の債券レボ市場GC T/N物の出合い水準は、1.005%が中心となり、週を通してオファーサイドの勢いが強く、引き続き付利近辺での推移となった。
SCについては、カレント銘柄近辺や、チーペスト周りの銘柄にビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、1Yゾーンが堅調に推移した。
19日に実施された1Y物入札では事前予想対比で強めの結果となったものの、セカンダリーでは軟調に推移した。
21日に実施された3M物入札では強めの結果となり、セカンダリーでは堅調に推移した。

●CP市場

今週のCP市場は、電気・ガス業、小売業、建設業など、複数の業態で大型発行が行われた。
市場残高は、25兆円台前半で推移している。
発行レートは、1.0%以上で推移し、銘柄や投資家の運用目線にばらつきがみられた。

●短期金融市場関連指標

	日経平均株価 (円)	新発10年国債 利回り (%)	為替 (ドル/円 中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート (T+1 ON・%)	日銀当座預金残高 (億円)
8/17 (月)	69,220.25	2.920	159.04	0.977	1.000	4,250,000
8/18 (火)	67,460.73	2.935	159.48	0.977	1.000	4,244,400
8/19 (水)	65,326.42	2.890	159.41	0.977	1.000	4,221,600
8/20 (木)	66,216.79	2.845	158.42	0.977	1.000	4,247,400
8/21 (金)	66,016.36	2.875	159.09	0.976	1.000	4,239,100

翌週（8月24日から8月28日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー （※米国については、政府機関閉鎖の影響に留意する必要がある。）

	国内主要経済指標	国債等入札予定	海外主要経済指標
8/24 (月)	*7月のFSBLレポ統計の日本分集計結果(日銀 8:50) *営業毎旬報告(8月20日現在,日銀 10:00) *日本銀行が保有する国債の銘柄別残高(日銀 17:00頃)	GX10年物 8/25発行 2,500億円	*8月の独IFO企業景況感指数
8/25 (火)	*7月の消費者物価のコア指標(日銀 14:00)	交付税借入 9/2借入 12,000億円	*7月の米新築住宅販売件数 *8月の米消費者信頼感指数
8/26 (水)	*7月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50)	流動性供給 8/27発行 6,500億円	*7月の米個人消費支出(PCE) *4-6月期の米GDP改定値
8/27 (木)	*氷見野副総裁講演(埼玉県金融経済懇談会における挨拶)		*8月の米カンザスシティ連邦銀製造業景況指数 *ジャクソンホール会議(~29日)
8/28 (金)	*8月の都区部消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) *7月の労働力調査(完全失業率 総務省 8:30) *7月の有効求人倍率(厚生労働省 8:30)	TDB3M物 2Y物 8/31発行 9/1発行 37,000億円 28,000億円	*8月の米シカゴPMI

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
8/24 (月) 日銀予想	200	11,300	11,500	国債補完供給	600		600	12,100	TDB3M発行▲37,000 償還44,000
8/25 (火) 弊社予想	300	▲3,300	▲3,000				0	▲3,000	GX10Y発行▲2,500 国有林野借入▲1,000 期日960
8/26 (水) 弊社予想	▲200	▲1,000	▲1,200				0	▲1,200	
8/27 (木) 弊社予想	▲500	▲7,000	▲7,500				0	▲7,500	流動性供給▲6,500
8/28 (金) 弊社予想	▲700	▲1,000	▲1,700				0	▲1,700	

●短期金融市場の見通し

無担保コールON物は、引き続き資金調達ニーズが堅調とみられ、0.975～0.978%程度の出合いが中心となる見通し。ターム物については、ショートターム物では横ばい圏での出合いが継続する見込みだが、9月の決定会合を跨ぐ期間については、利上げ観測を背景にレートが上向きに推移すると予想される。債券レポ市場は、GC T/N物のレートは0.995～1.005%程度の水準で推移することが見込まれる。短国市場は、28日(金)に3M物の入札が予定されている。CP市場は、期明けの発行が予定されており、動向が注目される。

来週の主要なイベントとして、国内では25日(火)に7月の消費者物価のコア指標、26日(水)に7月の企業向けサービス価格指数、27日(木)に氷見野副総裁講演(埼玉県金融経済懇談会における挨拶)、28日(金)に8月の都区部消費者物価指数、7月の完全失業率・有効求人倍率などが公表予定である。海外では25日(火)に7月の米新築住宅販売件数、8月の米消費者信頼感指数、26日(水)に7月の米個人消費支出(PCE)、4-6月期の米GDP改定値、27日(木)にジャクソンホール会議(~29日)、28日(金)に8月の米シカゴPMIなどが公表予定である。

- ◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等を負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。